

「オスプレイ」配備 断固反対!!

戦後60年以上経過したが、沖縄県民は戦時下からいまだに開放されず苦しんでいる。日米安全保障条約における同盟国を傘にして、米軍は今なお居座っている。今年4月、日本政府は米国政府と安全保障協議委員会を開催し、日米両政府は「共同発表」を行い、「日米同盟の抑止力を強化する」ことを明らかにした。これは、在沖縄米軍基地と日本全土の米軍・自衛隊基地を、対中国の最大重要基地として強化する目的と、自衛隊と米軍が同時に軍事行動を展開できるようにするためである。

さらに、7月には日本の外務大臣と米国务大臣が会談し、米軍垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの米軍普天間飛行場配備計画を予定通り行うことを日本側に明らかにした。

これを受け、岩国と宜野湾市の市民や労働組合が中心となって、オスプレイ配備反対の運動を大きく巻き起こっている。米軍はオスプレイをどうして普天間飛行場に配備しようとしているのか？オスプレイが配備出来なければ米政府の国防戦略が狂う恐れがある。米軍は普天間飛行場を輸送基地とするためにオスプレイ配備を謀っているのである。

労働者や弱者が犠牲となるあらゆる戦争施策に反対し、戦争のない平和な道を突き進もう！

**日本の軍事大国化を許さず、
反戦平和・憲法9条を守ろう!!**